

児童発達支援

(別添資料1)

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービス
ヒトツナひょうたん山教室

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

3 月

15 日

法人（事業所）理念		私たちが目指すのは、子どもたち自身のQOL向上です。QOLはQuality Of Lifeの省略形で、「生活の質」と和訳されています。QOLを向上することで自己実現や社会活動への参加の可能性を広げます。		
支援方針		①遊びの中から学習し、スキルを獲得し、成長できる、自立のちからをつける ②親が子育てを楽しめるようになる ③支援に関わるスタッフも楽しい ④療育方法は科学的エビデンスと再現性を重視する		
営業時間		平日 10 時 00 分から 12 時 00 分まで 平日 13 時 30 分から 17 時 30 分まで 休校日 10 時 00 分から 16 時 30 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	年齢が上がるにつれ、身体にも変化が起き、心に起きる葛藤が難しくなります。頭ではどうすべきか分かっているが、プライドや不安など、複雑な気持ちに混乱して行動に移せない… “気持ちに名前を付ける”、“強さに段階を付ける”、“絵にして描いてみる”など、感情を客観視してコントロールする練習をします。		
	運動・感覚	“緊張”、“弛緩”など身体のコントロールをする練習をします。また、体の感覚や様々な感触に触れ、感覚の成長を支援します。体の動きをコントロールできると、気持ちや、テンションのコントロールへも役立ちます。		
	認知・行動	”着席”、“大人をよく見る”、“話を聞く”、“嫌なことへも頑張ってみる”等、課題に向かう、学習の姿勢を支援します。「頑張ったよ」と感じるような関わり方や内容を工夫します。また、情報を適切に処理、コミュニケーションの難しさから生ずる行動の予防方法を考えます。また、何もない、暇な時間が辛く感じるお子さんもいます。待つ時間や余暇の過ごし方を一緒に考えます。		
	言語 コミュニケーション	“要求”、“報告”、“聴く”、“模倣”、“観察する”など、自分も周りも大切にコミュニケーションを学びます。言葉だけでなく、ジェスチャーやカード等、子どもに合った方法を一緒に考えます。暴力や、暴言など、社会的には不適切とされる行動も、子どもにとっての何らかの問題に“対処している行動”と捉えることが出来ます。どんな問題に対処しようとしているのか、丁寧に観察しつつ、社会的にも適切な行動を考え工夫し、支援します。		
	人間関係 社会性	ソーシャルスキルの習得を目指します。ソーシャルスキルを使用すると、「やって良かった」「楽しい」と感じるなど、良い体験となるように設定を考えています。集団での活動や、友達との関わりを通して実践的に学び身につけます。 ”挨拶”、“ルール”、“マナー”、“礼儀”、“感謝”、“謝罪”など社会生活で活躍するスキルを身に付けます。“友人”、“上下”、“利害”、“同盟”、“協力”、“対立”など、集団で発生する様々な人間関係において、相手も自分も大切にしたい行動を選択できるように一緒に考えます。		
家族支援		子育てに前向きな気持ちで向き合える方法を学ぶプログラムや、家族の精神面でのケアなどを定期的に実施します。	移行支援	障がいの有無にかかわらず多様な子どもたちの集まる場としての公園や地域施設での活動を取り入れ、地域の同年代との関わりを促進したり、保育園や学校との連携に努めます。
地域支援・地域連携		自治体関係機関・学校・園などと連携し、必要な情報共有を通じて、関係機関と一体となって支援をしていく。学校・園へは支援方法や環境などの相談援助をし、利用計画の作成・見直しにも共有した情報を積極的に反映していく。	職員の質の向上	月に2回の継続研修の他、児童精神科医、理学療法士等の専門家によるコンサルテーションによって専門性を高めます。
主な行事等		月次プログラム参照		